

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	有限会社 厚生会		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	平成21年9月18日	評価結果市町村提出日	平成21年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501574&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 10 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の1階には、協力医療機関であるゆり形成内科整形があり、緊急時にもすぐに受診が出来、安心して過ごしていただける体制になっている。
レクレーション(誕生会、夏祭り、ドライブツアー、クリスマス会等)を通じて、入居者、職員、地域の人々との交流を深めていくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は各種事業所や商店が連立、一般住宅も点在している。鉄骨二層構造建物の1階は関連医療法人(施設の協力医療機関)で、その2階部分が2ユニットの当グループホームとなっている。医療連携体制が構築され日常の健康管理をはじめ緊急時の対応にも安心して暮らせる場所になっている。職員は事業所の理念を共有し実践、常に地域との関わりを大切にしながら穏やかでゆったりとした介護と支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設では、名刺の裏に理念のカードを携帯し、又、ホール等に掲示してある用紙を確認しながら『心の癒しを介護の心得とします』を理念とし介護に取り組んでいる。	「心の癒しを介護の心得とする」旨を理念に掲げ職員は日々確認、地域密着型サービスの意義もよく理解しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会などに夏祭り等の催し行事を回覧していただき、や自治会への参加、散歩時に挨拶をする等、地域住民へ情報を発信している。	自治会に入会し、各種地域行事(祭事、運動会、清掃等)の連絡を得て参加している。また、事業所の催し(夏祭り、各種演芸会)への参加を呼び掛けるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設では、取り組んでいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて自治会長及び家族様からの意見や要望・質問を頂き、今後の入居者へのサービス向上に努めている。	役所担当職員、自治会長はじめ主要メンバーで構成されていて、今年は既に3回(5月、7月、9月)実施。漸次建設的な意見を得ながらサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ訪問したり、担当者には運営推進会議へ参加していただき、相談や助言を頂き、協力関係を築いている。	役所は近いことも有り、立ち寄り機会が多い。管理者はその都度、担当職員と面談し報告や相談、情報の入手に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為をマニュアルにまとめ、運営者及び職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容とその弊害をよく理解していて、身体拘束はしていない。玄関、リビング、居室等出入り口についても鍵は掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を開催し、職員は、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はみえないが、施設内研修を行い、全職員に把握してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が家族様等に対応し、納得していただけるように、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、入居者及び家族様等からの意見・要望・苦情などを全職員で話し合う機会を設けて検討している。	管理者や職員は機会が有るたびに、出来るだけ利用者や家族の希望や意見、苦情を聞きだすように努めている。苦情等があれば、全員で話し合い、検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、職員より運営に関する意見や提案などを検討し反映させている。	運営者、管理者、職員間の意思疎通がはかられ、何時でも、何でも話し合える関係が出来ている。定例会議も毎月開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、全職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、施設内外の研修への参加を勧め、研修の年間計画を立てて実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会へ参加し、同業者間での情報交流を行ない、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や実調時に困っていることや要望を出来る限りよく聞き、又入所時にアセスメントシートを作成し、本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や利用に至るまでに家族からの要望・不安等を聞き取り、アセスメントシートに記入し、職員が周知できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等から、考えや思いを聴き取り、他のサービス利用の説明や資料の提供等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、利用者の身体状況に応じ、家事の手助けをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に最近の様子等を伝え、家族様とも情報の共有が出来るように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の地等へはドライブツアー等で出かけ、対応している。 友人・知人の面会に関しても受け入れている。	一人ひとりの生活習慣や希望を尊重し、思い出の場所に出かけるなどの場面づくりに積極的な支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の意向を尊重しつつ、孤立しないように、利用者同士の関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この一年間は病院への入院、他施設への入居が殆どである。しかし、家族様からの退院後の入居の相談については随時、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシート作成時に本人の希望等の把握に努め、本人本位を大切にすることを心掛けている。	職員は、アセスメントシートや日常の会話の中で、利用者一人ひとりの希望や意見の把握に努めている。意思表示の困難な利用者には、その日の表情や、しぐさ等から察し、支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの作成時に、本人や家族及び関係機関から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、現状の状況報告をし、意見交換をしている。必要に応じ、本人、家族や関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、変化が生じた場合には、現状に即した計画を作成している。	本人・家族の希望や意見も取り入れながら、利用者毎に職員全員で検討し、一人ひとりに合わせた介護計画を作成している。見直しも適時適切に行われ、家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のカルテ、業務日誌に記入し、変化などがあれば申し送り時に報告・検討、情報共有をし実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、同一建物内の他サービスと連携するなどして、柔軟な支援をしている。医療面においても併設のクリニックと連携し健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、他の介護施設や医療機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族などの希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の良好な関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。緊急時は当施設の協力医療機関を利用している。	日常の健康管理および緊急時についても協力医療機関(同建物1階)による適切な受診体制が出来ている。また、本人や家族が希望するかかりつけ医との関係も良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に留意し、変化がある場合には、協力医療機関の医師・看護師に連絡する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように、情報交換を行い、施設の環境整備をし、受け入れられるよう努力している。入院になった場合は、出来る限り面会に行き、情報交換し、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期の利用者がいる場合、日々をよりよく暮らせるために当施設で出来ること、出来ない事を見極め、かかりつけ医と共に在宅医療も含め、チームとしての支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期については、家族やかかりつけ医および関係者と相談の上、出来るだけ満足の得られる対応をしたいと考えている。医療連携体制加算の認可も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に救急カートを準備し、医師、看護師の救急処置に備えている。利用者の急変や事故発生時に備え、人工呼吸などの応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会等で火災や地震、水害等の災害時の対応を話し合い、昼夜を問わず利用者が避難出来る方法を職員が身につけ日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	今年9月に消防署の協力を得て、職員、利用者、1階のデイサービス関係者と共に、避難器具の点検や通報等、避難訓練を実施した。	2ユニット共に2階に位置し、構造面からも避難通路に限界がある。特に職員の手薄になる夜間における非常時にも、適切な対応が出来るよう、念入な対策や諸器具の確認と全職員への周知徹底が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念にあるプライバシーの確保に基づいて、声かけや対応、行動に十分注意し、個人情報の取り扱いに配慮している。	職員は、利用者の誇りや人格を尊重しながら、ゆったりとした介護支援を行ない、言葉かけも穏やかである。個人情報の取り扱いも適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のある利用者に理解できる言葉掛けや、説明を行い利用者本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、自己決定をし納得しながら生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で出来る限り個々のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや身だしなみが出来るように支援し、理・美容は本人の望む馴染みの店に家族や職員と一緒に出かけようように勤めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、一人一人の好みに合わせ、個々の体調や能力にあった食材の下ごしらえや準備、片付けなどを手伝っていただいている。	利用者の希望も取り入れ、食材の買物、調理準備や食後の後片付けなど、利用者のできる範囲で力を発揮して貰っている。食事中は笑顔で会話をまじえ楽しい雰囲気である。職員は、個別食の方にも、ゆったりと本人に合わせた介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人一人の状態に応じた支援を行っている。個々の状態に応じて粥・刻み・ペースト等を提供し食事摂取量を、毎食時記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の匂いや汚れが生じないように、毎食後個々の口腔状態や能力に応じた、うがい、義歯洗浄を行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、個々の能力や排泄パターンを理解し、気持ちよく排泄できるように支援している。利用者の身体能力に合わせてリハビリパンツ、オムツ等を昼夜使い分け残存能力を活かせるようにトイレ誘導を行っている。	利用者毎に、排泄パターンを把握して声かけをする等、出来るだけ自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解し、予防と対応の為、飲食物の工夫や運動等の働きかけに取り組んでいる。申し送り、カルテ等で個々の管理を行い、状況に応じて緩下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の身体状況に合わせて、機械・リフト浴で対応している。	ユニット(1)は月曜、木曜。ユニット(2)は火曜、金曜。何れも週2回の午前中としている。	利用者一人ひとりの生活習慣や希望を大切にしたい。本人の意向を第一に考え、くつろげる支援になっているか？今一度、本人・家族とも話し合うなど確認してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、休憩、安眠していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々が服用している薬の効能等について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。個々の服薬の目的・用法・効能が記入されたファイルがあり随時確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人一人の生活歴や能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 買い物、ドライブ等個別の楽しみや趣味を活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的な外出だけではなく、利用者からの外出希望にも対応している。 施設周辺の散歩で地域住民の方や、併設事業所の利用者との交流も楽しめるように行っている。	利用者の体調や希望により、日常的に散歩、食材やお菓子、小物等の買物に出かけている。また、地域の催し、季節に応じた花見、景勝地、名所に出かけるなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、利用者個人の希望や能力に応じて金銭の所持、使用を支援している。施設内の自販機を利用したり、買い物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から依頼があれば事情の許す限り、速やかに取り次ぎ、家族等に自ら電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の照明には電灯色を使用し、利用者にとっての不快感や光が入らないように配慮している。 テーブルの上等に季節の花等を飾ることで、より、季節感をだし、気持ちよく過ごしていたくように配慮している。	室内は全体に明るく換気も良い。リビングにはソファや畳コーナーがあり、家具や置物も家庭的である。洗面台に稲穂の飾り、テーブルには季節の果物(柿、栗、アケビ等)が盛られているなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には、独りになるための畳スペースやソファを配置し、利用者同士でも自由な過ごし方が出来るような空間が工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や泊まりの部屋は、普段からの使い慣れた物を本人や家族と相談しながら持ち込んでいただいている。家具の配置等は本人が生活しやすいよう自由に配置していただいている。	利用者一人ひとりが、使い慣れた家具、馴染みの物や好みの物で装飾をし、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は、一人一人の身体機能を活かし、歩行器や車椅子使用の方でも安全で出来るだけ自立した生活が送れるようにバリアフリーとなっている。緊急時には、ベットごと移動できるよう配慮してある。		